

白比川水系河川整備計画

平成14年3月

沖 縄 県

目 次

第1章 河川整備の現状と課題	1
第1節 流域及び河川の概要	1
第2節 治水の現状と課題	2
第3節 河川の利用及び河川環境の現状と課題	2
第2章 河川整備計画の目標に関する事項	4
第1節 河川整備計画の対象区間	4
第2節 河川整備計画の対象期間	5
第3節 洪水・高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	5
第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、 河川環境の整備と保全に関する目標	5
第3章 河川の整備の実施に関する事項	6
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行 により設置される河川管理施設の機能の概要	6
1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所	6
2. 河川管理施設の機能の概要	7
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	9
1. 河川管理施設の維持管理	9
2. 水量、水質の監視等	9
第3節 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項	9
1. 地域ぐるみの河川管理	9
2. 情報伝達体制の構築	9

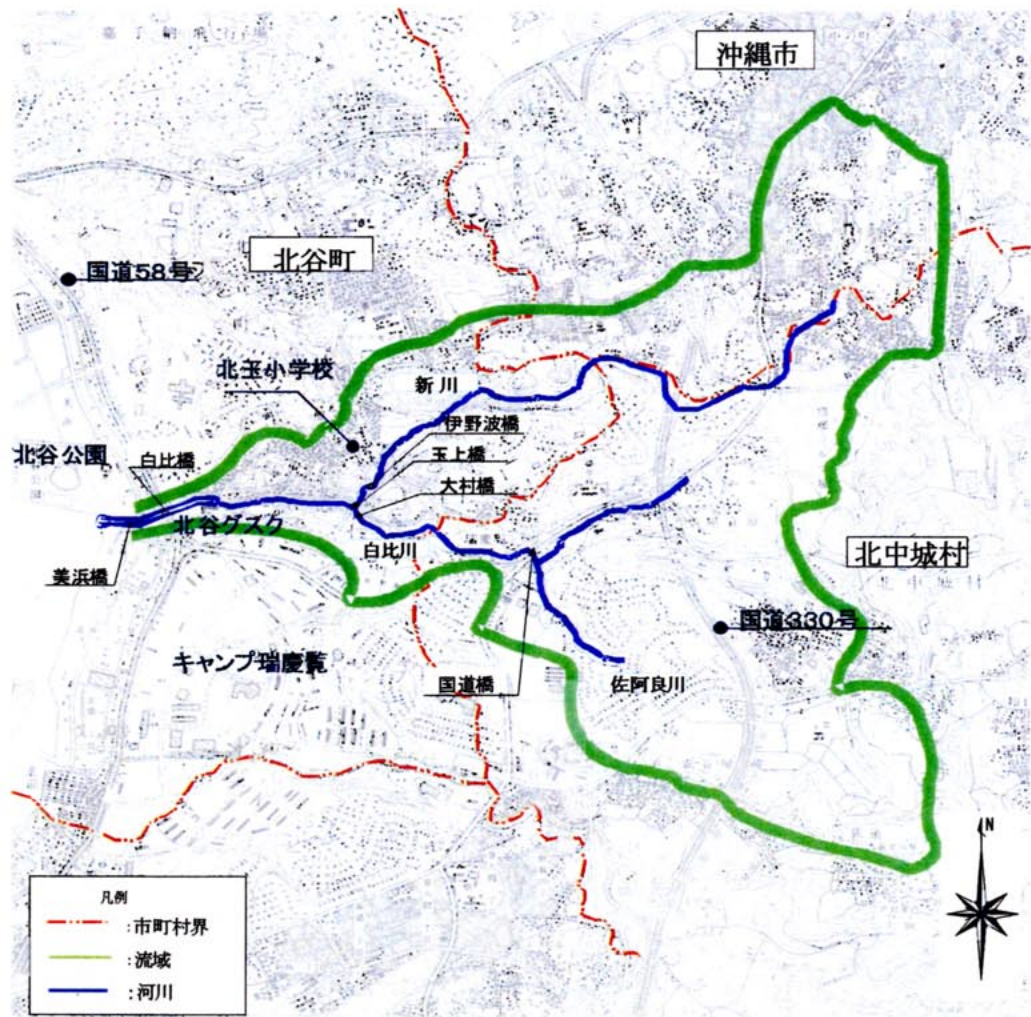
第1章 河川整備の現状と課題

第1節 流域及び河川の概要

白比川は、沖縄本島中部地区に位置し、その源を北中城村南部に発して、北谷町内を流下しながら、支川の新川と合流して東シナ海へ注ぐ、流路延長3.0km、流域面積8.3km²の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、降雨は梅雨期と台風期に多く、年平均降水量は約2,000mm、年平均気温は約23℃である。

白比川流域は、沖縄市、北谷町、北中城村の3市町村にまたがっており、流域の36%を米軍基地が占めるとともに、戦後の米軍基地建設及び民間の住宅建設にともない市街化が進んでいる。このうち流域の最も下流に位置する北谷町内には住宅及び商業施設や学校、公民館、運動公園などの公共施設があり、広大な米軍基地が所在する同町において重要な生活空間となっている。また、下流左岸米軍基地内の丘陵地には地域の歴史的・文化的象徴である北谷城跡が位置している。



白比川流域図

第2節 治水の現状と課題

白比川の治水事業は、昭和48年より河道拡幅等に着手したが、河口より白比橋までの区間で整備が止まっている。このため白比橋より上流は河道断面が小さく河川の流下能力が低いことから、昭和60年8月5日から14日にかけての台風8号、9号の大雨では吉原地区の住宅地や大村地区の畑などが洪水被害に見舞われている。

また、近年においても、平成11年9月の台風、平成12年4月の集中豪雨などの大雨によって、下流域の住宅地や畑などで洪水被害が発生しているため、抜本的な治水対策が求められている。

第3節 河川の利用及び河川環境の現状と課題

河川水の利用については、昭和25年頃までは洗濯や水浴び等の生活用水として利用されていたが、現在は水道の普及により生活用水としての利用はなく、新川合流点直下流で米軍が雑用水として約300m³/日を取水している。また、河川沿いのかんがい用水として利用されている。

河川の利用に関しては、小学校の生徒や父母による自然体験学習の場として利用されているとともに、自然河岸が残る新川合流点周辺は子供達の川遊びの場となっている。

白比川の源流から国道330号に至る上流域は、米軍基地内の自然林が繁茂する中をゆるやかに流下している。河道は自然河岸で、沿川の崖斜面にはアカギやハマイヌビワ、リュウキュウマツ等が生育している。流れのゆるやかな淵にはキバラヨシノボリやアオバラヨシノボリ等の清流を好む魚類が生息し、水辺にはカワセミ、リュウキュウヨシゴイ等の水鳥が確認されている。

国道330号から新川合流点までの中流域は、河川沿いに耕作地が広がり、河岸には湿潤な環境を好むアカギや石灰岩地を好むヤブニッケイ等が生育している。河道は主に自然河岸であり、透水層の琉球石灰岩と不透水層の島尻泥岩の境目が露出している箇所からは地下水が湧出している。河床には大小さまざまな転石が点在し、瀬・淵が交互に連続して形成されている。淵には甲殻類のコンジテンナガエビや魚類のアオバラヨシノボリ等が生息し、転石の下や河岸岩礫部は甲殻類のモクズガニ等の生息場となっている。

新川合流点から変電所付近までの下流域は、沿川に宅地や米軍基地が近接しており、河道はブロック積み護岸又は石積み護岸となっている。自然河岸が残る取水堰周辺には、アカギやハマイヌビワ等からなる河畔林が生育し、河床には巨石が点在しており、良好な河川環境が

形成されている。また、堰下流の砂礫からなる河床には瀬・淵が連続して形成され、魚類のオオクチユゴイや甲殻類のヒラテテナガエビ等が生息している。

変電所付近から河口に至る感潮域は、沿川に宅地や米軍基地が近接している。河道はブロック積み護岸又は石積み護岸となっており、汽水域に生息するボラ、ゴマフエダイ等の魚類が生息している。

このように白比川では、流域の市街化が進む中、良好な河川環境が形成されている区間が残っており、動植物の多様な生息・生育環境が保たれていることから、その保全に努める必要がある。また、地域住民からは、既設護岸が親水性に乏しいことから、身近な自然とふれ合える、潤いのある水辺空間の整備が望まれている。

河川の水質は、類型指定されていないが、白比川本川で平成12年のBOD75%値が2mg/リットル以下となっている。

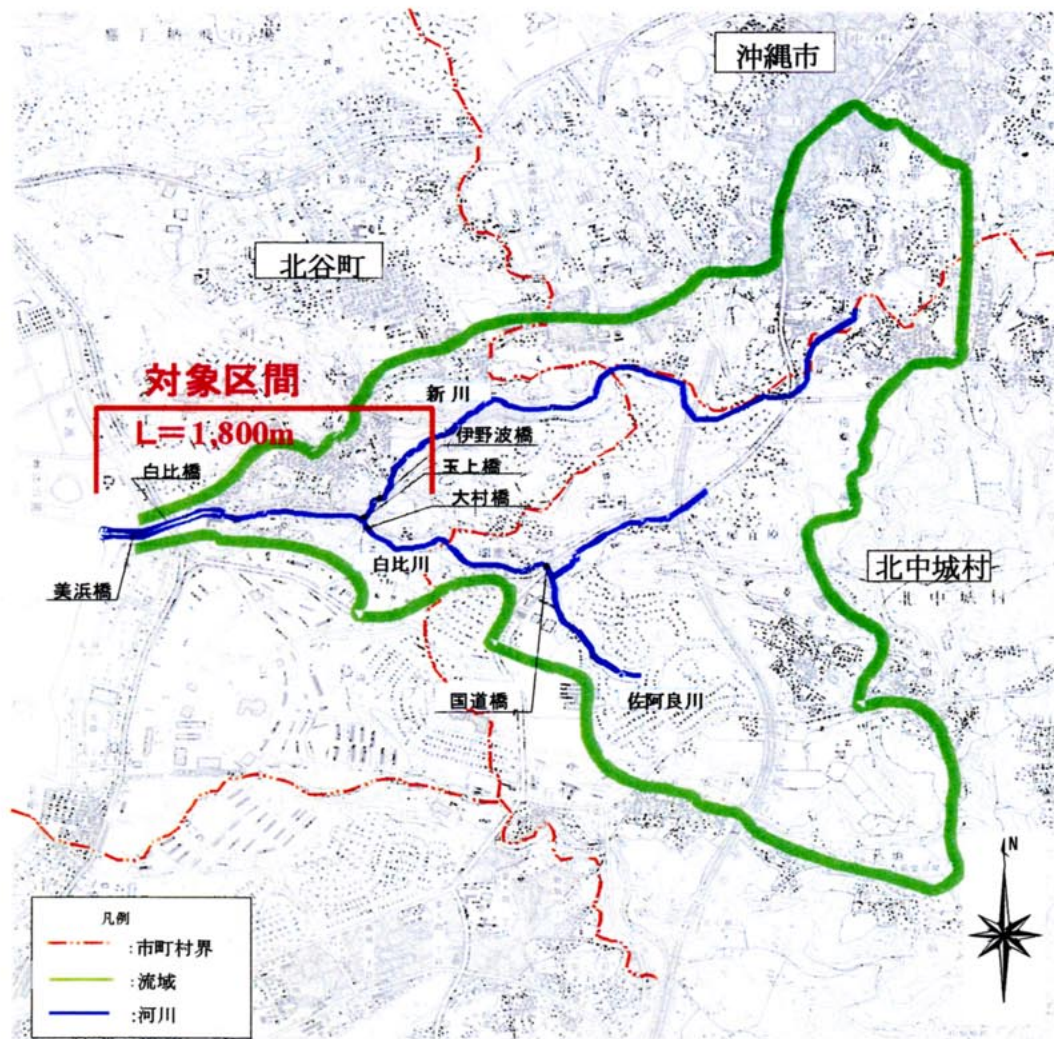
近年の下水道整備の進捗に伴い、水質の改善が見られるが、今後とも水質の向上に努める必要がある。

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 河川整備計画の対象区間

本計画の対象とする区間は、下表に示す区間とする。

河川名	対象区間		区間距離
	自	至	
白比川	左岸：北谷町字玉上 伊野波原123番地先 右岸：北谷町字大村 船作原576番地先	左岸：海に至る 右岸：海に至る	1,800m



整備計画対象区間概略図

第2節 河川整備計画の対象期間

河川整備計画の対象期間は、計画策定から概ね15年とする。

本計画は、現時点の白比川流域の社会状況・自然状況・河道状況に基づき策定されたものであり、今後の流域状況の変化や、河川技術の進歩等により便宜見直しを行うものとする。

第3節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

白比川水系においては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮して、30年に1回程度で発生する洪水から下流域の住宅地及び畑等を防御することを目標とする。

また、計画規模を上回る洪水に対しても、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備を図る。

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全に関する目標

河川水の利用に関しては、過去の渇水時においても既得の水利用に支障はなく、水量は比較的豊かである。

白比川の水量については流量把握に努めるとともに、流水の正常な機能が維持されるよう、関係機関等と連携しながら健全な水循環の構築に努める。

河川の適正な利用に関しては、身近な環境学習の場として、また、人と川との豊かなふれあい、憩い、潤いの場として活用できるような水辺空間の整備と保全に努める。

河川環境に関しては、治水、利水との調和を図りながら、動植物の生息・生育環境の保全に努める。特に、中流域は自然林が繁茂し、瀬・淵が形成され、生物にとって良好な生息・生育場所となっていることから、その保全に努める。

河川の水質については、近年の下水道整備等により水質の改善が図られているが、今後とも関係機関と連携しながら、水質の向上に努める。

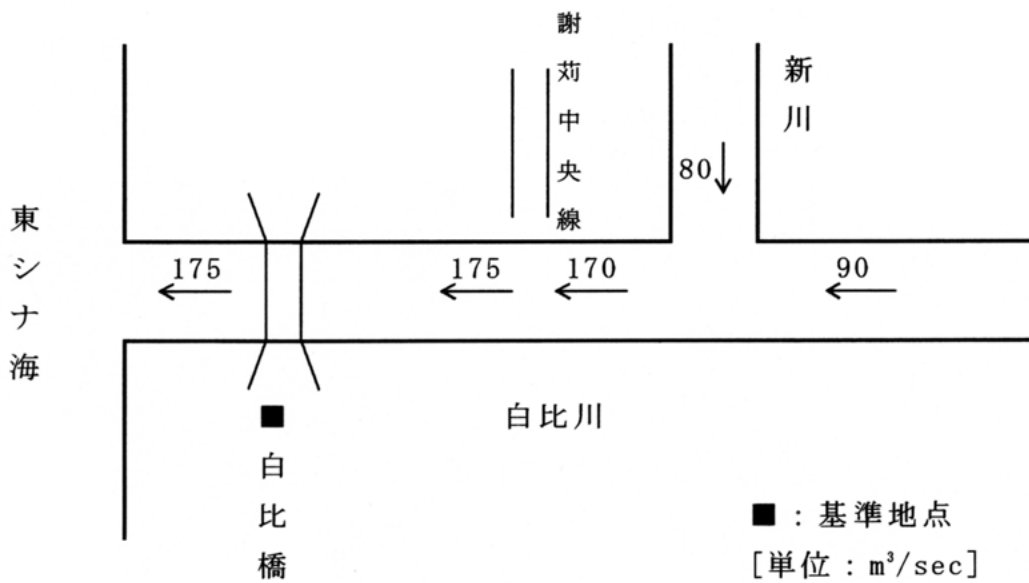
第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所

白比川水系においては、過去の災害実績等を考慮して30年に1回程度で発生する洪水から下流域の住宅地や畑等を防御することを目的とし、河道拡幅及び護岸等の整備を行うものとする。

河川名	施行の場所	整備の内容
白比川	北谷町字玉上地先から河口（右岸） 北谷町字大村地先から河口（左岸） （1km/800mから河口まで）	河道拡幅及び 護岸等の整備 約L=1.8km



計画高水流量配分図

2. 河川管理施設の機能の概要

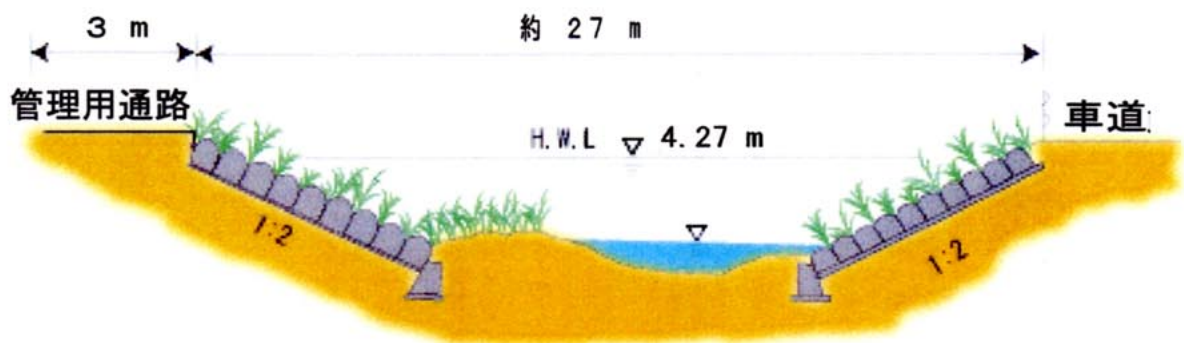
河川整備にあたっては、白比川に生息する魚類のヨシノボリ類が取水堰上流の瀬・淵において生息していることから、これらの生息環境に配慮した整備と保全に努めるとともに、魚類等の移動に配慮し、みお筋の整備を行う。

また、河川護岸については、緩やかな勾配で植生の回復に配慮した構造とし、地域住民が身近な自然とふれあえる場、観察や学習が行える場、憩い潤いの場となるよう親水性に配慮した整備を行う。

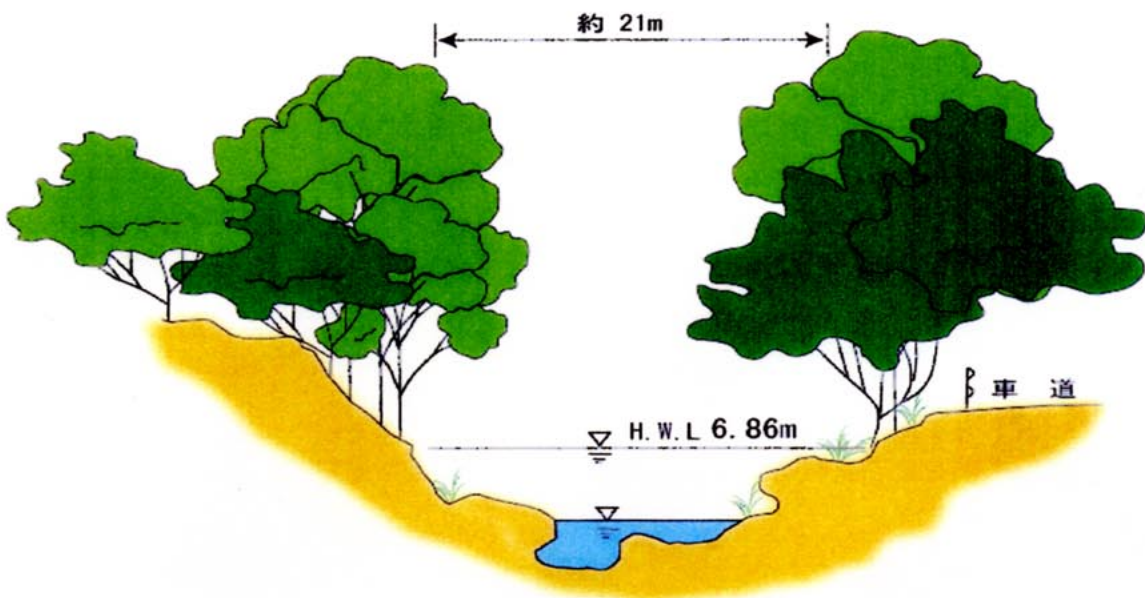
さらに、取水堰付近や河口から1,800m付近については、良好な河川環境を有していることから、その保全に努めるものとする。

河川工事の実施にあたっては、赤土等の流出防止対策を行い、水質汚濁の防止を図るものとする。

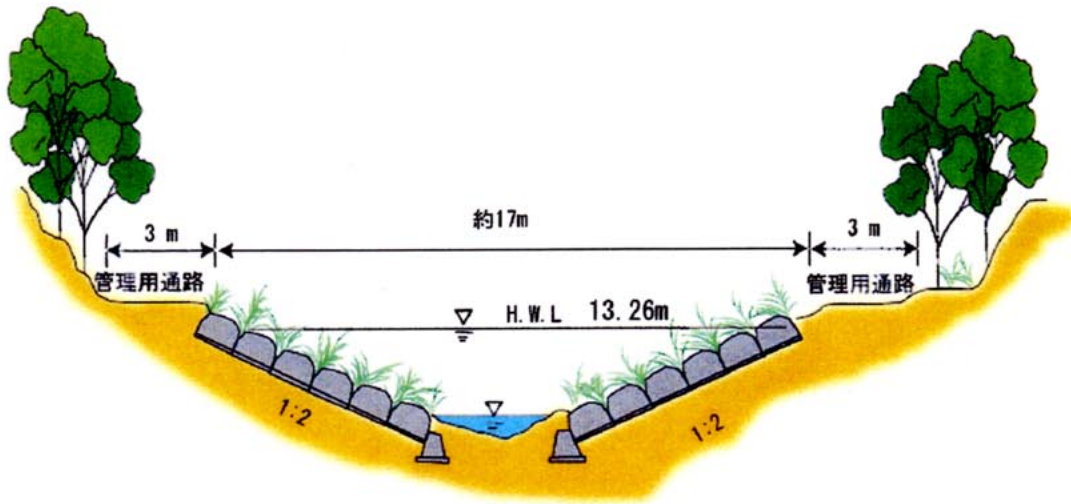
断面①(河口から800m付近)



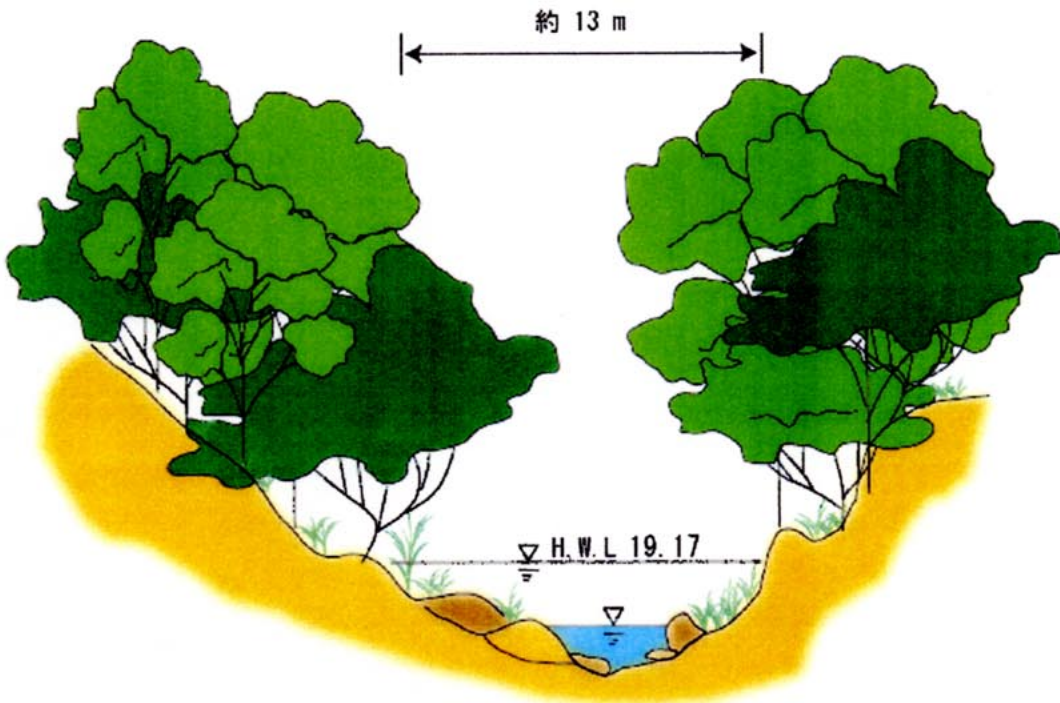
断面②(河口から1,150m付近)



断面③ (河口から1,550m付近)



断面④ (河口から1,800m付近)



第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川の維持管理に関しては、洪水等による災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全等の観点から総合的に管理する必要がある。

1. 河川管理施設の維持管理

白比川において、河川管理施設が所期の機能を十分に発揮できるように、施設の変状、破損等の異常の早期発見に努め、異常を発見したときは原因を究明し、すみやかに補修して災害の発生を未然に防止する。

また、河床に堆積した土砂等の撤去については、瀬・淵などの河川環境に配慮して実施する。

さらに、治水上支障となる河道内の植生については、環境上の影響に配慮して、伐採等を行うものとする。

2. 水量・水質の監視等

白比川においては、流水の正常な機能の維持を目的に、日常的な雨量・水量の把握を行う。

また、水質事故等については、河川巡視や地域住民等との連携により早期発見と適切な対処に努める。

第3節 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

1. 地域ぐるみの河川管理

白比川を常に安全で適切に利用・管理する機運を高め、より良い河川環境を地域ぐるみで形成することを目的に、河川管理者として収集した情報や河川利用に関する情報等の提供を行い、住民参加による河川管理を推進する。

2. 情報伝達体制の構築

白比川における洪水被害を防止・軽減することを目的として、これらに関する情報の提供を行うとともに、地域住民一人一人の防災意識を高めるよう努める。

また、関係機関と連携し、洪水時における地域住民の警戒・避難を助けるための情報伝達体制を構築するものとする。